

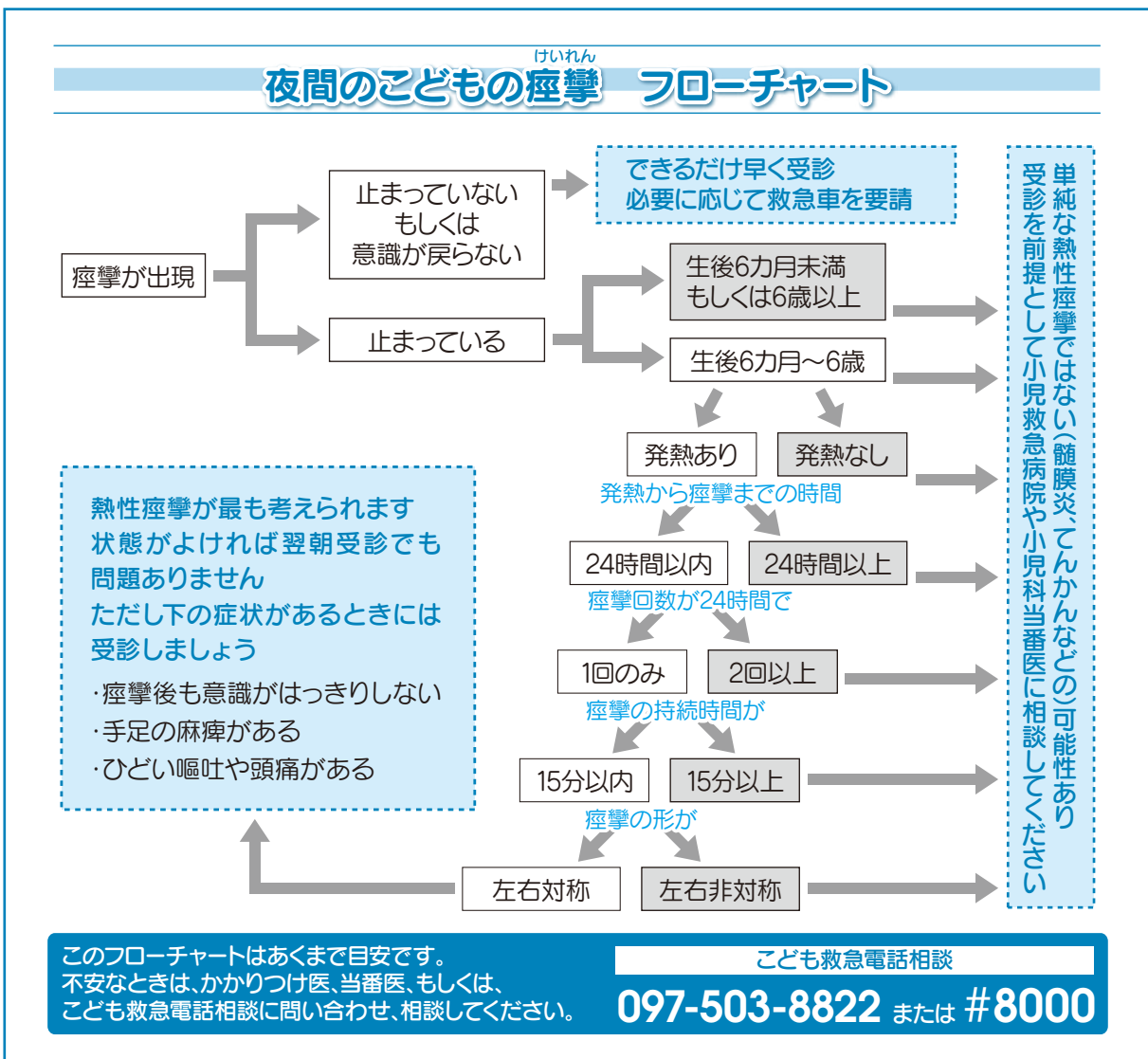
医などに連絡をして判断を仰ぎましょう。数分たってもけいれんが止まらない場合や、見た目の動きは止まっても意識が戻っていない場合などは救急車を要請しましょう。

◎悪寒・戦慄◎

急に熱が上がっている時に、顔色が悪くなりブルブル震えることがあります。呼びかけに応じるようであればけいれんではありません。けいれん中は一般に意識はなく呼びかけには応じません。悪寒・戦慄の際は、寒くないように十分身体を温めてあげてください。熱が上がりきると震えが止まりますので、ここからは比較的薄着で熱を逃がすようにしましょう。熱さましを使うのもこのタイミングが効果的です。同時に水分補給も行いましょう。

◎受診のタイミング◎

はじめてのけいれん発作を見た場合は、こども電話相談、かかりつけ医、当番医などにご連絡をいただくのが無難です。脳症や脳炎、代謝性疾患、てんかんなど緊急度に応じた検査を行い、単純な熱性けいれんかどうかを見ておく必要があるからです。複数回熱性けいれんを起こされる場合は、前述のようにけいれん後の児の様子で判断いただいても良いと思います。次に示すフローチャートも参考にしてください。



問い合わせ 国東市民病院 ☎0978-67-1211